

「iPhoneアプリ開発講座 はじめてのSwift」 Swift 5 対応ノート

2019/8/13, 2019/9/3, 2019/9/9, 2020/9/6, 2020/10/30 山田 泰司 <taiji@aihara.co.jp>

1. Xcode 10 から、p. 226 図「AppDelegate.swift のソースコード表示」の `application(_:didFinishLaunchingWithOptions:)` メソッドの第2引数 `didFinishLaunchingWithOptions` に指定するオプション型の Dictionary 型のキーが `UIApplicationLaunchOptionsKey` から `UIApplication.LaunchOptionsKey` に変更になりました。言い換えれば、大域定数のそれから `UIApplication` クラスの定数の型プロパティ `LaunchOptionsKey` に移行されたということになります。ここは、テンプレートで生成されるコードなので、他のアプリも同様。
2. Xcode 10 から、p. 232 図「Storyboard の画面構成」のユーティリティエリアのライブラリは、
`⇧⌘L` … View → Libraries → Show Libraries メニューまたは
`⇩⇧⌘L` … View → Libraries → Open Libraries メニュー、もしくは、
ツールバーエリア右側の「+」ボタンまたは `option` を押しながら「+」ボタンで選ぶように、変更されました。よって、例えば、p. 233 図「ビューの追加」などにおいて、ユーティリティエリア内にはライブラリペインはありませんので、上記のいずれかの方法で表示させてから操作して下さい。`option` を押しながら表示させた場合、ライブラリがいちいち非表示にならないので、続けて操作するとき便利です。他の場面も同様。
3. p. 264 のコード内
`currentOperator = .undefined` → `currentOperator = .undefined`
単なる誤植。
4. p. 276 のコード内
`func update() { … }` → `@objc func update() { … }`
Swift 4 から生成する Selector インスタンスのメソッドには「コンパイラディレクティブ `@objc`」が必要になりました。
5. p. 284 のコード内
`if CLLocationManager.authorizationStatus() != .authorizedWhenInUse {
 manager.requestWhenInUseAuthorization()
}`
↓
`if manager.authorizationStatus != .authorizedWhenInUse {
 manager.requestWhenInUseAuthorization()
}`
iOS 14 から `CLLocationManager` のクラスメソッド `authorizationStatus()` が廃止になり、インスタンスのプロパティ `authorizationStatus` で「現在のユーザ許可のステータス」が提供されるようになりました。

6. p. 287 のコード内

```
let region =
    MKCoordinateRegionMakeWithDistance(current.coordinate, 500, 500)
    ↓
let region =
    MKCoordinateRegion(center: current.coordinate,
                       latitudinalMeters: 500, longitudinalMeters: 500)
```

Xcode 10 から仕様が変更されました。本文の説明についても同様。（こうした大域的な名前空間の節約に関する仕様変更は他にも多々あるので、Xcode の補完機能で容易に推測できるかと思われます。）

7. p. 321 のコード内

```
func collectionView(_ collectionView: UICollectionView, cellForItemAtIndexPath indexPath:
IndexPath) -> UICollectionViewCell {
    return UICollectionViewCell()
}
    ↓
func collectionView(_ collectionView: UICollectionView, cellForItemAt indexPath: IndexPath) -
> UICollectionViewCell {
    return UICollectionViewCell()
}
単なる誤植
```

8. 「写真ビューアアプリ」は本書の手順通りやっても、**レイアウトがズレてしまう**という問題があります。これは Xcode のビューのデフォルト値が変わったことに起因していると思います。以下の手順でレイアウトのズレは解消できます。

1. UICollectionView のサイズインスペクタにて「Estimate Size」の「Automatic」を「None」にする。
2. UIImageView のアトリビュートインスペクタにて「Content Mode」の「Aspect Fit」を「Scale To Fill」にする。

9. しかし、これでもかつての Xcode のバージョンで作成したものと同一ではありません。この方法で作成したものは、UIImageView は UICollectionViewCell のサブビューである ContentView のサブビューになっています。配布されている PhotoViewer はそうではなく、UIImageView は UICollectionViewCell の直接のサブビューとなっています。以下の手順でその状態を実現できます。

1. UICollectionViewCell である「ImageCell」のサイズインスペクタにて「Size」を「Automatic」から「Default (Discouraged)」にする。

10. Swift 5 から、本書には登場しませんが、String 型がコレクション化され、必要だった `.characters` は不要になりました。例えば、文字列の長さ `"Hello Swift".characters.count` は `"Hello Swift".count` とする必要がありません。